

明るく住み良いまちに

曾野木地区の “七味の会” ボランティア



会員と中学生が協力してお弁当作り

明るく住み良い地域にしよう、曾野木地区にはふれあい給食（宅配給食・集合給食）や三世交代交流などの在宅福祉活動をはじめ、さまざまな活動に取り組んでいるボランティアグループがありま

さ・愛・和・豊かな心”という七つの思いが込められています。ことしの新たな試みとして、完全学校週5日制に合わせて宅配給食を土曜日に



配達先でパチリ

来てくれてとてもうれしかった。ぜひ、またやりたいです”と感想を話していました。在宅福祉活動に限らず、地域の老人ホームでのボランティアや子どもたちへの昔遊びの出前講座など多岐

から18人の生徒が参加。調理や盛り付けを手伝った後、地域のお年寄りなどにお弁当を届けました。子どもからお弁当を手渡されたとき、涙ながらに喜ぶ人もいました。子どもたちも、お年寄り

と直接触れ合えてとても喜んでいました。同会の会長、五十嵐武子さん（曾野木2）は、想像以上の反応に喜びを隠さない様子。また、活動に参加した同校2年の長沢真之さんは、「宅配に行った時、おじいさんやおばあさんが笑顔で出て

にぎわいと活気を ゆめ祭り酒屋

西川地区にもう一度にぎわいと活気、元氣を取り戻したいとの思いから始まったイベント「ゆめ祭り酒屋」が、9月14日に開かれました。

この祭りは、酒屋町商工会が中心となって、平成10年から開催して



り、毎年さまざまな催しを企画しています。ことしの祭りは、消防音楽隊のパレードで始まり、新鮮野菜の販売、大福まき大会などで大いに盛り上がりました。



酒屋町商工会の小野正蔵会長は「後継者の育成も目的のひとつ。若い人たちに、祭りを通じて地域の人と連帯を深め、人と触れ合う素晴らしさを感じてほしい」と期待を込めて話していました。

両川行事マップ 両川地区の発展などについて考える「両川地区活性化推進委員会」では、両川行事マップ「写真」を作製し、地域の全世帯に配布しました。これは、地域のいろいろな行事に参加することで、地域への愛着を深めてもらおうと作製したものです。マップでは1年間のイベント、伝統行事などを紹介しています。関心のある人は、酒屋町商工会（280・2240）へお問い合わせください。

鳥屋野中の環境保全活動

鳥屋野地区クリーン作戦など

南地区は、鳥屋野瀧や田園など、自然豊かな風景が多く残されています。鳥屋野中学校では、こうした地域の

特性を生かして、さまざまな環境保全活動に取り組んでおり、地域の模範的な環境保全活動を表彰する、今年度の環境賞

にも選ばれました。毎年、春と秋に行っている「鳥屋野地区クリーン作戦」がその活動のひとつ。これは、昭和57年から続いているもので、生徒会が中心となり実行委員会を結成し活動を行っています。

ことしは、始めに地域のごみの実態調査を実施。その結果をゴミマップとしてまとめ、「ごみを減らし、地域をきれいにするにはどんな活動が考えられるか」を生徒自身が考え実践しました。

6月25日には、全校生徒（721人）の約9割が参加し、鳥屋野瀧周辺などのごみ拾いや草取り、側溝の清掃などの美化活動のほか、美化を呼び掛けるポスター作製などの広報活動を行いました。

活動に参加した生徒からは、「すくいい活動だと思っ」「いろいろなごみによって地域が汚されていて悲しかった」

「自分のため、人のために活動できた。ぜひまた参加したい」など、さまざまな感想がありました。環境教育を担当する栗林操教諭は、「自分で考え行動できる生徒になってほしい。この活動はそのひとつのきっかけになれば」と話しています。

そのほか同校では、地域の農家の休耕田を利用した稲作体験活動、鳥屋



鳥屋野中学校周辺のごみ拾い

美化ポスターが完成

春と秋の鳥屋野瀧一斉清掃も地域の恒例行事として定着しています。

この清掃には、地元自治会をはじめ、ボランティア団体、地域の企業などから数多くの人が参加。5月19日に行われた一斉清掃は、W杯直前ということもあって、弁天線や新瀧駅周辺などの市内一斉清掃も同時に行われました。

秋の鳥屋野瀧一斉清掃は、10月20日に行われます。みんなで鳥屋野瀧をきれいにしましょう。

割野ブルーロケッツが快進撃を見せました。この野球少年団は、割野小学校（全校児童87人）の3年から6年生の児童を中心に16人で構成。高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会県予選会で見事準優勝に輝き、8月10・11日に静岡県富士宮市で行われたルート日本海太平洋学童軟式野球大会に県代表として出場しました。結果は惜しくも1回戦で敗れましたが、少人数で頑張る子どもたちの活躍は、地域に明るい話題を提供してくれました。



「鳥屋野瀧周辺は、ピッグスワンなどができ、多くの人が訪れるようになりまし。新瀧の顔として、きれいな鳥屋野瀧で新瀧を訪れた人をお迎えしたい。そのために、こうした地道な活動が、多くの市民に広がってほしいですね」と同社の浅野良三さんは話していました。

東日本システム建設（女池4）からは、毎回50人から60人が参加しています。

この地区の歴史は 水とのたたかい

南地区を構成する鳥屋野・曾野木・両川の3地区は、亀田郷（信濃川・小阿賀野川・阿賀野川・通船川に囲まれた地域）の西側にあります。亀田郷は、ほとんどが海抜ゼロメートル前後の低湿地帯で、かつては全国有数の水郷地帯でした。

この地区の歴史は、水とのたたかひの歴史とも言われ、宝暦7年（1757年）の和田切れ、大正6年（1917年）の曾川切れなど、繰り返して起こった水害によって田畑はつぶされ収穫は減少し、農民は貧しく不安定な生活を余儀なくされました。

大正11年（1922年）の大河津分水通水以降です。しかし、腰まで泥につかって農作業しなければならぬ所も多く残っていました。

昭和22年に栗ノ木排水機場が完成すると、用排水路の整備や耕地整理が進み、乾田化された美田が広がる地区になりました。

昭和30年代に入り、郊外住宅が建つようになり、さらに鳥屋野瀧の隣には、昭和39年の新瀧団体に備えて鳥屋野瀧球場や球技場が作られるなど、この地区の周辺には文教施設が多く建設されたほか、曾野木団地の建設など、市街化が急速に進みました。

一方、新瀧地震の災害復旧のひとつとして、昭和43年に現在の親松排水機場が完成しました。また、平成10年8月4日の集中豪雨により、鳥屋野瀧流域で甚大な浸水被害が発生したことから、国が鳥屋野瀧排水機場を建設。ことし5月から一部稼働し、大幅に排水能力が向上しています。



大正6年曾川切れの濁流（上）、地元有志によって建てられた曾川切れ記念碑（右）